

若手研究者コラムリレー

中澤 雄飛 (なかざわ ゆうひ)



プロフィール

帝京大学教育学部 講師
日本体育学会の専門領域: 体育哲学

埼玉県生まれ

2006年 国士舘大学体育学部武道学科 卒業

2007年 青年海外協力隊(ブルガリア共和国、剣道) 参加

2015年 国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科 修了
博士(体育科学)

2015年より現職

専門競技は剣道です。

E-mail: ynakazawa@main.teikyo-u.ac.jp



ゼミの学生と共に(奥の中央が筆者)。

わたしの研究

“身体”でわざを習得することの 人間学的意味を考えてみたい

スポーツでは、特定の技術を身につけるまでに何千、何万回もの練習を行い、そしてそれができた時には、言葉では表現し難い大きな喜びや感動があります。それは、数十回に一度の成功かもしれませんし、もしかすると、数百回に一度の成功の時もあるでしょう。しかし、その一瞬の気持ち良さを求めて、ただひたすらに練習に取り組めることが、スポーツの魅力の一つでもあると思います。そして時には、自分の中で生起するほんの一瞬の変化が、それまで自分が見ていたスポーツの見方を一変するような大きな出来事になり得ることもあるだろうと思うのです。

そのようなスポーツにおける一瞬の出来事は、スポーツの世界に止まらず、時にはその人の生活を、さらには人生観をも変えてしまうようなインパクトをもたらすこともあるでしょう。例えば、「心が前向きになる」、「自分に自信が持てるようになる」、「今までと違う考え方ができるようになる」等、自らの身体の内側で経験される変化が、スポーツの枠組みを超えて、その人の生き方にまで影響を及ぼすことは、想像に難くありません。

近年、教育現場では、「成果の可視化」が叫ばれ、行為の前に「何ができるようになるか」という説明責任が求められています。また、人工知能をはじめとするテクノロジーの進化により、人間の行為の意味が新たな視点で問われているようにも思われます。そのような社会の中で、人間がスポーツを楽しむことにはどんな意味があるのか、さらにはわざを習得する一瞬の出来事には、人間にとってどのような意味があるのか、それらを人間学的な視座から探究してみたいと考えています。

わたしの渾身の論文・書籍・記事

中澤雄飛(2014)芸道にみられる身体の学習論: 身体の規律化とミーシスとしての模倣をめぐって。体育・スポーツ哲学研究, 36巻2号, pp.83-96.

必読

(なんでも帳)

ブルガリアに赴任して間もない頃、一人のホームレスの子どもがゴミ箱からタバコを取り出し、慣れた手付きで喫煙する姿を目にしました。そしてその数日後、現地のラジオ番組に出演した時、「あなたは剣道を通してブルガリアに何を伝えたいのか?」という質問を受けました。その時の衝撃とやるせなさが、研究の道に入るきっかけとなりました。

当時の質問に対する十分な答えは、未だに見つかってはいません。しかしながら、愚鈍な私が研究の道を歩んでこられたのも偏に諸先生・先輩方をはじめ学問を通して出会えた友人や学生たちのお陰だと思っております。これからも、多くの方々との出会いを楽しみに、またそのご縁を大切に、精進していきたいと考えています。どうぞ宜しくお願いいたします。



ブルガリアの剣道仲間と共に(前列の左から5番目が筆者)。

○次回のコラムリレーは帝京平成大学「藤川和俊」さんを予定しています。

日本体育学会若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育学会若手の会が発足しました!

→メーリングリスト登録フォーム:

<https://goo.gl/forms/zGMPdPa5fY3kcB5q2>

学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メーリングリストで周知したい情報がありましたら、下記までご連絡ください。

taiikugakkaiwakate@gmail.com (担当: 木村)

